

「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム2016」参加概要報告

奈良市立平城小学校 新宮 済

1. はじめに

11月26日に東京で行われた「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム2016」に参加した。このフォーラムは、奈良 ESD コンソーシアムの平成28年度 学ぶ喜び・ESD 連続公開講座第2回で「地球の歴史と ESD」について講演された柴尾智子氏の所属する ESD 活動支援センターが主催しており、柴尾氏と公開講座でできたつながりからご紹介いただき、奈良 ESD コンソーシアムの教員として参加することができた。ESD 活動支援センターとは、地域 ESD 活動推進拠点と共に ESD 推進ネットワークを形成し、連携して ESD を支援するセンターである。そのような日本の ESD の推進を担う ESD 活動支援センターが主催した日本の ESD の先端の場に、地方の一教員が参加し、最新事情に触れ学ぶことができたことに感謝し、ここでの学びを述べていく。

学びは大きく2つある。1つは、持続可能な未来をつくるための様々な教育や学び、人づくり、地域づくりの実践の広がりを俯瞰することができたこと。2つは、これからの持続可能な未来づくりのために多様な主体が協働するための機会を得ることができたことである。

2. 持続可能な未来をつくるための様々な実践の広がりの俯瞰について

「ESD が目指す世界」として SDGs について学び、世界の動きから ESD について考えた。見えてきたことは、ESD が第2ステージに入ったという位置づけである。「ESD の10年」を経て解決できたこともあるが、気候変動・地球温暖化、格差社会といった新たな課題が浮かび上がっている。これからは ESD を作り一緒に走りつづけた大人の世代から、その時に子どもだった我々の若者世代が引き継ぎ、残された課題や、新しいテーマにアプローチし、子どもに ESD をつなげていかなければならないのである。SDGs は「2030年に向けた地球の『マスター・プラン』」であり、途上国・先進国の垣根を超え、国内の問題も解決へ導くものである。この策定にあたっては、積み残し課題をふまえて世界で「幅広いコンサルテーション」が行われたプランであるようだ。「国連総会

でのマララさんの言葉」“Education is Hope, Education is Peace”や「Wannabe」リメイクキャンペーン動画

“#WhatIReallyReallyWant”は、これからの未来を作り出していく若者なのだという強いメッセージと知識基盤社会に生きる若者へのアプローチのアクティブ化に触れることができた。国連が必ずユースから声を聴く場を設けているということ、首脳、ジャーナリストに、若者（ユース）の声が入る世界会議での動きが伝えられたことも驚きであった。ここでの報告により、自分たち若手世代は ESD の第2ステージに向かう推進の担い手であることを再確認することができた。

3. 持続可能な未来づくりのために多様な主体が協働するための機会

今回、官民協働のプラットフォームについて共有し、ESD の未来についてグループワークを通じて考えた。ここでの発見は、奈良 ESD コンソーシアムが行ってきた「学びのプラットフォーム」での経験が、官民協働のプラットフォームを進めていくための話し合いで重要視されたことである。たくさんの実践家が官民協働のプラットフォームについての活用経験がなく悩んでいたが、奈良 ESD コンソーシアムで経験した「学びプラットフォーム」での可能性や活用事例を話し、たくさんの実践家に認めていただいた。周りの興味関心が高かったことから、奈良 ESD コンソーシアムで行われた学びの形を全国の実践家へ広げていくべきであると感じた。また、ここでは講演を通じて刺激を受けたユース世代の実践家と交流することができた。ESD 活動支援センターが ESD を推進していく仕組みとして、「若者世代による ESD 情報発信プロジェクト」を開始。それに伴い生まれた「社会人ユース ESD レポーター」のユース世代の仲間ともつながることができた。平城小学校の ESD の実践取材していただいただけでなく、今後の ESD の情報交流など様々な形でこのつながりを活かしていけることが期待できる。

